

A3-02

グリーン水素研究拠点新設をブレイクスルーとする山梨大学の研究力強化の試み

鈴木 美季（山梨大学 研究推進・社会連携機構研究力強化推進センター）

【ビジョン】地球上には多くの課題が山積しており、とくに気候変動等の環境問題、災害や戦争による不安定なエネルギー供給への対応は喫緊の課題である。このような情勢のなか、本学は最重点強化領域としてグリーン水素研究を中心に据えて、下記の4大ビジョンを掲げ、「グリーン水素を核とした世界屈指の研究力を有し、グリーンイノベーションにより地方創生を先導する大学」となることを目指す。

- ①研究卓越性：国内外の頭脳循環を通じて最先端の知見や技術を融合し、研究の「質」を世界トップレベルに上げ、クリーンエネルギー研究の世界的トレンドを形成する。
- ②地球規模のイノベーション：世界中からプロジェクトや企業投資を誘致するハブを構築し、グリーン水素普及のブレイクスルーとなる技術革新につなげ、市場規模と経済効果の拡大に貢献する。
- ③地域の知の総和：福島大学と連携しながら、地域社会をテストベッドとして科学的根拠と政策決定の間のギャップを埋めるための実証を行い、持続可能なグリーン水素社会モデルを提唱する。同時に、両県における関連産業の規模拡大を促進し、強靭な自立型エネルギー社会の実現につなげる。
- ④研究と教育の好循環：最新の研究成果を教育・人材育成に還元するための教育プログラムを確立し、カーボンニュートラル社会実現を担う高度人材を持続的に輩出する。

【戦略】 ビジョン達成に向けて、新たな組織「グローバルニュートラルエネルギー研究機構 (Global Research Institute for Energy and Environmental Neutrality: GR/EEN)」とR&D施設「ゼロエミッションみらいラボ(右図)」を設立し、下記4つのイニシアチブを推進する。

- ①先鋭研究強化：新たな給与・人事制度を整備し、分野を牽引するトップレベル研究者と若手研究者を本学に採用する。また、国際業務可能な高度人材も含めた支援人材の増員に加え、博士課程学生の待遇改善により人的リソースを確保する。
- ②多階層頭脳循環：クロスアポイントメント等を活用し、GR/EEN副機構長も含めて海外研究機関から研究者を招聘する。また、欧州・北米・東南アジアに3つのGR/EEN海外拠点を設置して国際共同を促進するとともに、国内・学内の諸学融合研究を育成する。
- ③社会実装加速化：福島大との連携基盤「グリーン地方創生プラットフォーム」を設立し、科学的な視点からグリーン水素の経済性を評価し、水素社会の普及と持続可能性を検証する。また、次世代エネルギーシステム技術研究組合(FC-Cubic)との連携強化等により商業化を推進する。
- ④人材育成：2023年に開設した工学部クリーンエネルギー化学コースを基盤とし、海外機関との大学院Dual Degreeプログラム、福島大との混成科目の開設等を通じて学士～博士一貫教育を確立する。また、グリーン水素産業に資する人材を養成するリカレント・リスキリング講座を発展させる。



【全学への波及】 GR/EENを皮切りに、大学運営の改革を行い、研究/職場環境改善を全学に波及させる。具体的には、教員・職員・AI協働による業務効率化、研究教育業務サポート体制の拡充、実績に応じた人事評価と待遇への反映、コアファシリティ整備と共に拡大ボトルネック解消、頭脳循環を促進するプロジェクトの拡充等を実現させることを目指す。

PROFILE

鈴木 美季（山梨大学研究推進・社会連携機構研究力強化推進センター URA、准教授）

略歴：学生時代に生態学を専攻し、JSPS特別研究員制度(DC2)の支援を受けながら博士号(理学)を取得。卒業後、種苗会社を経て、2017年に山梨大学URAに着任。**業務**：新人の頃から、学内研究助成プロジェクトの企画・運営、異分野マッチング、競争的研究資金の申請支援等を行う。2022年から大規模プロジェクトを担当するようになり、文科省「国立大学改革・研究基盤強化推進補助金」やJ-PEAKS事業において、企画立案から採択後のマネジメントに従事している。